

ICT機器を活用した技術向上・経営強化

西三河農協(愛知県)

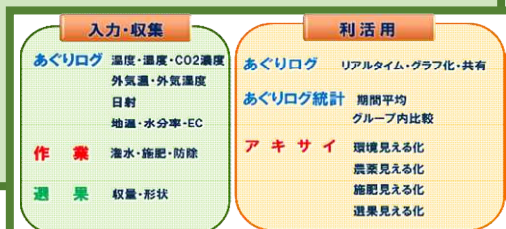
取組の背景

- 西三河農協のきゅうり部会は選果データを生産現場に直接フィードバックできる選果機をメーカーと共同開発し、データを基に栽培技術マニュアルを作成したり、ハウス内の環境測定を行って研修会を開催するなど、個人の技術やノウハウを地域全体の品質と収量の向上に結びつける取組を従来から行っていた。
- このような活動をする中で、部会から栽培情報の収集や共有をリアルタイムで行い、栽培技術を見える化する方法はないかと農協に相談が寄せられた。



取組の概要

- 県とIT企業が共同開発した環境測定器「あぐりログBOX」と富士通の農業支援クラウドサービス「Akisai」の導入を農協が提案。
- 平成26年にきゅうり部会やあいち経済連、メーカー等と連携しながら現場の意見や要望を取り入れ、機能の追加・改良を実施。翌年には改良されたこれらツールの生産者への本格導入を開始。
- あぐりログBOXにより、生産者はスマートフォン等で自身だけでなく、他の生産者の栽培状況をリアルタイムで把握できるようになり、自身の栽培の参考にするほか、Akisaiに蓄積された栽培履歴や環境・選果データを活用して農協や部会が研究会やセミナーを開くなどして産地全体の技術向上、経営力強化に取り組む。
- 現在、これらのツールはきゅうり部会を中心にイチゴやトマト、ハウスイチジク、バラ、菊の部会等、産地全体で導入が進んでいる。



成果

きゅうり部会	26年度 ^{※1}	27年度	28年度	29年度
あぐりログBOX導入農家数	18 農家	32 農家	40 農家	40 農家
" 導入台数	22 台	46 台	58 台	59 台
Akisai導入農家数	18 農家	32 農家	40 農家 ^{※2}	40 農家 ^{※2}
収量(t/10a) ^{※3}	24.1	24.8	27.0	26.9

(参考)産地全体の普及状況	29年度
あぐりログBOX導入農家数	70 農家
" 導入台数	119 台
Akisai導入農家数	56 農家

※1:平成26年度は試験導入年
 ※2:きゅうり部会の部会員は40名
 ※3:西三河農協きゅうり部会の収量はもともと全国トップクラスである。